倫理，政治・経済

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前　　文

令和３年度（第１回）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の「倫理，政治・経済」（以下「倫政」という。）の問題は，大問７問で構成され，「倫理」分野から４問，「政治・経済」分野から３問が出題された。設問は，「倫理」分野から16問，「政治・経済」分野から16問で，設問はすべて単独科目からの引用で，配点は50点ずつであった。

ここでは，本年度の問題について以下の視点から分析し，「倫理」と「政治・経済」それぞれの問題作成方針に基づいたものとなっているかどうかについて評価したい。

⑴　問題作成方針を踏まえて，知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め，バランスのとれた出題となっているかどうか。

⑵　高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）の範囲内から出題されており，特定の分野・領域に極端に偏っていないかどうか。

⑶　出題される資料等が，特定の教科書に偏っていないかどうか。

⑷　高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がなされた問題が含まれており，その場面設定が，教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されているかどうか。

⑸　試験問題の構成（設問数，配点，設問形式等）は適切であるかどうか。

⑹　文章表現・用語は適切であるかどうか。

⑺　問題の難易度は適正であるかどうか。

⑻　得点のちらばりは適正であるかどうか。

２　内　容・範　囲

第１問　「自然と人間」について（源流思想）

大学のオープンキャンパスでの模擬授業中の高校生の会話を通して，自然に照らして人間の在り方を考察してゆく場面設定である。レポートやメモ，発表の設定によって発展的課題を示し，様々な立場から考えさせる工夫がみられる。全体としては，バランスの取れた標準的な難易度の大問となっている。

問１　基本的な知識の理解で解答が可能な平易な設問である。

問２　森羅万象について，二元構成の比較を通して基本的な知識の理解を問う平易な設問。

問３　スチュワードシップの思想を活用することで，動植物との関係を多角的に考察させる良問である。しかし，スチュワードシップの思想は，教科書の頻出度が低く，やや難易度の高い設問となっている。新しい視点を生み出す工夫を生かすためにも，会話文に思想のヒントとなる内容を追記するなど，もう一工夫を期待したい。

問４　人間の在り方を水になぞらえた孔子，老子の思想についての理解を問う平易な設問。

第２問　「日本文化」について（日本思想）

写真を登場させるなど意欲的な取組が見られた一方で，資料として登場させた写真やレポートの文章などの活用については，もう一工夫を期待したい。各時代の出題バランスは適切であったが，細かい知識が問われており，全体的に難しい大問である。

問１　折口信夫の思想についての標準的な難易度の設問。

問２　中江藤樹の「孝」は知っていても，それが「あらゆる事象や事物を貫くもの」であることについては正誤判断に戸惑った受験者も多いだろう。やや難しい設問。

問３　アの『喫茶養生記』や，イの「綜芸種智院」は「倫理」の学習範囲では厳しい。また，アとイはいずれも文化の側面を取り上げており，教えや思想内容で正解を導く方が，受験者の学習成果を問うには望ましいだろう。

問４　資料を丁寧に読み取ることができれば正解を導ける平易な設問である。大問の会話文を活用するなど，もう一工夫を期待したい。

第３問　幸福について（西洋近現代思想）

「幸福とは何か」についての発表資料を基に，西洋近現代思想に関する知識が問われるだけでなく，資料や会話文の読み取りを通して思考力等が問われている。全体としては受験者にとって取り組みやすい設問が多かったであろう。

問１　カルヴィニズムと，ウェーバーの思想についての理解を問う難易度の高い設問。aに予定説の内容が入ることが分かれば，b，cについても文脈に沿って正答を導くことができそうだが，カルヴィニズムとウェーバーの思想について深い理解がなければ迷ったであろう。

問２　カントの道徳思想についての理解を問う，やや難易度の高い設問。選択肢の具体例は受験者にとって分かりやすいものとなっているが，カントの道徳について深く理解していないと正答を導くことができない。発表資料を活用するための一工夫があってもよかった。

問３　シモーヌ・ヴェイユの思想についての資料と会話文を用いた設問。ヴェイユについて深く学んだ受験者は少ないと考えられ，服従も「魂の糧」となるという難しい内容の資料のようにも見えるが，選択肢の文章も分かりやすく結果として平易な設問となった。読解を通して思想への理解を深めることができる設問である。

問４　高校生の会話の内容を読み取る設問。会話文は幸福と労働についての内容で発表資料と内容的に関わりがあるが，資料を振り返る必要はなく，平易な設問となっている。気付きの変化を読み取らせるという点で工夫は見られるが，知識を活用した上での会話文の読み取りにするなどもう一工夫が欲しい。

第４問　異文化理解とその倫理的課題（現代の諸課題と心理）

異文化理解を話題にする高校生同士の会話文を読んで解答していく構成。共通テスト⑴と比べ，従前の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の出題形式に近く，知識の理解のみで正答を導ける設問が多く，会話文の下線部だけを見て解答できてしまうきらいがあった。ミードやテイラーといった，教科書でも扱いが大きくない思想家も取り上げられているが，正答を導くのは困難ではない。

問１　国際貢献に対する意識の資料を読み取る設問。知識としてODAの基本的な理解があればよく，資料も分かりやすく複雑な設定ではないため平易に正答を導ける。

問２　葛藤の三類型を日常的なシーンと結び付けた設問。「倫理」の学びを日常とつなぐ設問は意味のあるものではあるが，思考力等を求めるもう一工夫を期待したい。

問３　共同体主義者テイラーの原典の一部を読み取る設問。解釈するだけでなく，共同体主義がどのような思想という知識を踏まえた考察を求める設問で，こういった設問は「倫理」の狙いに即しており良問と言える。

問４　看板の表記をめぐる会話文の空欄に文章を当てはめていく設問。センター試験の内容合致の設問は，読解力により判断できた感があるが，冒頭の会話文を踏まえた上で，正しく成立するように文章を空欄補充していくには，論理的に思考することが求められており，日ごろから思考力・判断力・表現力等を高める学びを実現していく必要を訴えているものと受け止められる。

第５問　市長選挙から考える日本の政治制度

市長選挙を題材とし，生徒が候補者の演説を聞いた帰り道とその学習についての場面設定をした大問である。全体としての難易度は標準である。

問１　日本の政治や選挙についての理解を問う標準的な難易度の設問である。

問２　日本の行政活動に関する法制度に関して理解を問う，やや難易度の高い設問である。

問３　日本の経済に関する法制度における経済に関する自由の理解を問う，やや平易な設問である。

問４　行財政改革に関して，法制度の理解に基づき実施可能な政策を判断させる，標準的な難易度の設問である。具体的に政策を考えることになる良問である。

問５　日本の公的医療保険制度の仕組みに関して，表の読み取りをした上で，医療保険制度の理解と思考力を問う，やや難易度が高い設問である。

問６　労働者保護に関しての理解を問う平易な設問である。

第６問　日常生活から考える資本主義経済の仕組み

日常生活の場面における経済に関する会話やチャット，新聞記事を場面設定して，経済分野の理解について問う大問である。新聞記事の場面設定は工夫されており，メッセージ性もある。全体としての難易度は標準である。

問１　企業の経済活動に関しての理解を問う標準的な難易度の設問である。

問２　市場メカニズムに関して，需要供給曲線の理解を基に，具体的事例を当てはめて計算させる標準的な難易度の設問である。

問３　国際分業と貿易に関して，比較生産費説の理解を基に，具体的事例を当てはめて計算させる，やや難易度が高い設問である。これまでの同様の問題と比べて設定に工夫があり，思考力・判断力等を問う良問である。

問４　世界各国の環境問題についての表の読み取りと知識を組み合わせて考察させる，標準的な難易度の設問である。

問５　具体的な経済政策について考察させ，その基になった経済理論を導きだした人物を答えさせる標準的な難易度の設問である。場面設定の工夫がある良問である。

問６　世界恐慌の頃の経済政策について，基本的な理解を問う設問である。場面設定には工夫がみられる標準的な難易度の設問である。

第７問　地域課題に対する国・地方公共団体・住民の果たす役割

「地域課題に対する国・地方公共団体・住民の果たす役割」をテーマにした生徒の地域調査の計画を題材とした政治分野と経済分野の融合問題である。課題の設定，資料の収集，探究，まとめ等探究活動の過程を示しており，メッセージ性のある問題である。全体としての難易度は標準である。

問１　日本の農業や地域産業について，資料から具体的な取組について読み取り，知識と関連させて考察させ，やや難易度の高い設問である。農家の具体的な取組を考察することができる良問である。

問２　需要曲線の価格弾力性について，農業商品を題材として，グラフの内容の理解を問う標準的な難易度の問題である。

問３　地方の産業振興政策に関して，費用対効果の考え方や設定された条件を理解させた上で，示された資料を考察させる，やや難易度の高い設問である。具体的政策提言をさせる，知識を理解し活用し考察させる良問である。

問４　地方自治の理論について，理解を問う平易な問題である。

３　分　量・程　度

「倫理」分野に関して，各大問及び各設問における原典資料等は，問題を解くために必要かつメッセージ性のあるものもあったが，そうではないものも散見された。今後は，より方針に沿ったものとしていっていただきたい。全体の分量としては，試験時間に照らして適切な分量であった。問題の難易度は，全体として，やや易しかった。出題内容や出題の分野のバランスの面では，共通テスト⑴と比べて，教科書等での頻出度の低い先哲の思想内容について，細かな知識を求める設問がいくつか散見された。

「政治・経済」分野に関して，試験問題の分量・程度は適切な量であったと判断できる。また，設問数・文字数も適切な量であったと判断できる。問題の難易度については，標準的な問題が多い。具体的な政策提言や概念や知識を活用が必要な問題も多く良問も多いが，一方で知識のみを問う問題も一定数設定されている。

４　表　現・形　式

「倫理」分野に関して，各設問の文章表現・用語については，受験者にとっておおむね適切であった。また，各大問で，学習の過程を意識した問題の場面設定がなされていた。しかし，倫理の本質に照らすと，場面設定が設問で思考力等を問うための工夫に生かしきれていないものも散見された。今後は，思考力等を発揮する学習場面の必然性をより考慮して，多様な学習場面の設定の工夫を期待したい。

「政治・経済」分野に関して，問題の場面設定において，高校生が授業で学習する場面や，社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を見出そうとする場面や，資料やデータ等を基に考察する場面などがあり，現実社会の諸課題について主体的に考察させ，公正な判断力を養い，良識ある公民として必要な能力をと態度を育てることを目標の一つに掲げる「政治・経済」の科目の本質と照らして適切であったと考えられる。大問の導入部分については，共通テスト⑴と比べて授業の場面設定が弱く，これまでのリード文に近い出題も見られ，設問での活用状況も少ないと感じる。一方で，設問には，授業設定の工夫があり，受験者としては，すぐに問題に取り掛かることができる上で，メッセージ性もある形式であった。設問により同様の工夫が可能な問題もあるとも考えられる。文章表現・用語や図表の取扱いについては，受験者が問題を理解しやすいように工夫されており，適切であったと考える。

５　ま　　と　　め（総括的な評価）

「倫理」分野に関しては，共通テスト⑵は，共通テスト⑴に比べて，やや知識の有無のみにより正誤を判断させるような設問が多くなっていた。共通テスト⑴と同様に，知識を活用し，考察させる設問を増加させるなど，共通テストの倫理の問題作成方針に更に適切に基づいた作問の工夫を期待したい。

特に，資料の読み取りに終始するのではなく，資料の中で，問いを提示し，その問いについて倫理の知識を踏まえた上で深く考察するような設問を期待したい。

「政治・経済」分野に関しては，生徒が主体的に活動する場面設定が行われ，設問の中で主体的な授業を促す工夫がみられた。資料を活用しながら思考力・判断力・表現力等を問う設問の増加から，知識を単純に覚える授業からの脱却が高等学校等において期待される。今後，更に，学習指導要領で求められる知識・技能を基に，それらを活用し，資料から課題を捉えたり，幅広い資料を多面的・多角的に考察する力など，思考力・判断力・表現力等が必要とされる設問の工夫を期待したい。

第２　教育研究団体の意見・評価

○　全国公民科・社会科教育研究会

（代表者　大山　敏　　会員数　約1,000人）
ＴＥＬ　03-3333-7771

１　前　　文

出題内容は，高等学校学習指導要領に示された教科及び科目の目標お及び内容におおむね則しており，基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問や難問とされる問体は見られず，高校生が学習した知識や涵養（かんよう）した思考力や判断力を用い，考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。基礎的基本的な知識を習得しているか，さらに習得した知識を活用して思考を深められるかを問う形になっている。問題作成には多くの困難があったものと推察される。基礎的基本的な知識とは何かを確認すること，その基礎的基本的な知識を問うに当たり単に知っているか否かを問うのではない工夫を施すこと，さらに思考力や判断力を問うこと，一定の平均点を確保すること，試験時間内にひととおり解き終わること，他教科あるいは他科目との出題内容の重複を避けること，高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなること，大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持すること，そして何より大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の初回として広く社会に誇れるものであることなど，出題者の努力には敬意を表するものである。来年度さらなる良問を作成し，高校生の学びの成果に応えていただくべく，後期中等教育の現場に在って公民科を与る立場から意見と評価を申し述べたい。

２　試験問題の程度・設問数・配点・形式等

共通テストの趣旨に則して作成されている。大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）と比べ，より高い処理能力が求められた。センター試験の時から，「倫理」は科目の特徴ゆえに，思考力判断力を問う問題が多く，共通テストを先取りしてきた。そのため，今回，共通テストとなっても，「倫理」分野ではセンター試験を踏襲した形式が多かった。「政治・経済」分野では問題の示し方が大きく変わったものの問われている基礎的基本的な知識や思考力判断力は変わっていない。「倫理，政治・経済」を入試科目として選ぶ高校生の平均的な学力を考えれば，読解に要する文章等の情報量が増えても平均点が大きく下がることは考えにくい。知識のみで解ける問題を極力減らし，思考力や判断力，資料活用能力を試す問題が増えたのは共通テストの意図を出題者が十分汲み取ったからである。汲み取った分だけ，設定にこだわりすぎて問いとは関係の薄い部分で冗漫になり，かえって煩雑で，読み飛ばしても正答が得られる問いもある。学習指導要領は同じであり，センター試験で問われてきた学力は変わらない。

第１問　「倫理」。高校生が大学のオープンキャンパスに参加したという設定で源流思想についての基礎的基本的な知識と思考力判断力を問う。オープンキャンパスにおける模擬授業での講師と高校生の会話から，源流思想についての基礎的基本的な知識を確認するとともに確かな知識に基づく思考力判断力を問う。

問１　人間のあり方についてギリシア思想とインド思想についての基礎的基本的な知識を問う。単にキーワードを覚えていただけでは正答は得られない工夫がある。正答③は六波羅蜜のひとつである布施の内容を説明している。

問２　源流思想を整理する問。正答❷は善のイデアについての知識が問われた。

問３　旧約の世界で「創世記」は神による天地創造を語っているので神が人間に言うのは考えられるが，イエスに言うとは考えられない。さらに，ｂを含むＡの話しから人間が被造物の一員であり，動植物の世話をする責任をもつことが選ばれる。スチュワードシップと聞いて驚いた高校生も少なくなかろうが，資料文の読解から理解できるよう工夫してある。

問４　水をキーワードとして孔子と老子の思想について基礎的基本的な知識と資料文の読解力を問う。

第２問　「倫理」。「道」」について，日本に来た留学生と日本の高校生及び教員の会話ならびに高校生のノートから日本思想に迫る。

問１　王子神社田楽舞の写真から新機軸の出題を期待した高校生も少なくないところ，問われているのは折口信夫の思想についての基礎的基本的な知識だった。しかも高校生が下線部イの「まれびと」についての嘘の情報を留学生に吹き込むという極めて非教育的な会話文となっている。折口の思想についての知識を問うのにこの形式が最適と考えた理由が分からない。

問２　中江藤樹の思想について基礎的基本的な知識を問う。キーワードは「孝」であり万物の道理としたから正答①は容易に把握される。

問３　日本における仏教について，基礎的基本的な知識を問う。

問４　和辻の文章から資料の読解に基づきレポートの趣旨に沿う表現を選ぶ思考力判断力の問い。

第３問　「倫理」。西洋近現代の思想について基礎的基本的な知識を中心に問う。キーワードは「幸福」である。生徒の発表という形で，Ⅰはルネサンスと宗教改革を，ⅡとⅢは近代西洋哲学を，それぞれ扱う。

問１　カルヴィニズムについての基礎的基本的な知識を問う。

問２　カントの思想について基礎的基本的な知識を問う。具体例を通して考えさせて解くよう工夫がある。

問３　ヴェイユの思想について資料文の読解に基づき考える問い。知識を問うだけにならないよう工夫されている。

問４　会話文の読解からふたりの考えを読み取る思考力判断力の問い。第３問全体のまとめとなるよう工夫されている。

第４問　「倫理」。今日的課題について語る会話文を理解した上で現代の思想について問う。

問１　国際貢献に関する調査統計のグラフ読み取りから思考力判断力を問う。

問２　レヴィンの葛藤についての基礎的基本的な問い。単に知識を問うことにならないよう具体例から考えるよう工夫されている。

問３　テイラーと共同体主義（コミュニタリアニズム）について資料読解に基づき考えて解く。共同体主義（コミュニタリアニズム）についても高等学校で学んでおくようにという示唆であろう。求められる読解力は難しくはない。

問４　図と会話文の読み取りに基づく思考力判断力を問う。発言者の立場と会話の文脈から適切な表現を補う言語能力の問いでもある。時間は要するが平易な問いである。

第５問　「政治・経済」。市長選挙の行われている中，二人の生徒が候補者たちの演説を聞いて感想を述べあっているという設定で，選挙，裁判，行政手続，地方自治，自由権的基本権から経済の自由，社会保障から医療保険制度，労働法規について問う。

問１　政治に関する基礎的基本的な知識を問う。政党，圧力団体，人事院，在外有権者の選挙権行使についての短文の正誤を問う。いずれも平易。

問２　日本の行政活動に関する法制度について基礎的基本的な知識を問う。行政手続法の目的，

情報公開法とオンブズマン制度，特定秘密保護法とプライバシー保護を問う。

問３　基本的人権の具体例を考える平易な問い。「出店規制」から職業選択の自由（営業の自由）と分かる。

問４　日本の選挙制度について政策の組み合わせを問う。aについては公的扶助の考え方の基本を理解していないと解答できない。候補者は実施できないものを公約にするだろうかという問題設定上の疑問がある。

問５　公的医療保険制度についての基礎的基本的な知識と図の読み取りから具体的な施策を考える問い。母の「制度上はそうなりそうね」から現実可能性ではなく制度上のことであるが手掛かりとなる。

問６　労働関係法規の基礎的基本的な知識を問う。労働基準法，労働者災害補償保険法，争議行為の免責，雇用機会均等について問う。

第６問　経済に関心をもったふたりの生徒の会話から経済全般について基礎的基本的な知識から思考力判断力までを問う。

問１　企業内貿易と労働集約的な組み立て工程についての知識を問う。用語は教科書に掲載されていないかもしれないが，丁寧に読めば理解できる。

問２　需要供給曲線の変化を考える問い。計算が求められるが算数であり図の意味が分かっていれば平易。

問３　比較優位について説明と表を見ながら考える問い。順を追って丁寧に考えていけば容易に正答は得られる。

問４　気候変動対策の国際的な取組について基礎的基本的な知識を問う。Ⅰからアが気候変動枠組み条約，イは京都議定書と分かる。Ⅱから，排出量を莫大に伸ばしているウが中国と分かり，削減が進んでいないエがアメリカ，カが日本と分かり，削減を進めているのがＥＵと分かる。

問５　新聞記事を装いながら知識を問う。ａは財政出動による景気対策からケインズ，ｂは裁量的経済政策の見直しと貨幣供給に注目しているところからフリードマン，ｃは保護貿易からリストをそれぞれ結びつける。

問６　コラムの趣旨とａ～ｄの説明を結び付ける問い。小さな政府から大きな政府へ，金本位制と兌換紙幣から信用通貨制度と不換紙幣へ，経済部ムックから自由貿易へという基礎的基本的な知識を問う。

第７問　課題の設定，資料の収集，課題の探究，まとめという段階を踏んで調査するという探究学習の設定で，地域産業，需要と供給のグラフの読み取り，地方自治について基礎的基本的な知識と思考力判断力を問う。

問１　地域産業の取組みを具体例の読解から考える思考力判断力の問い。記述の内容が正しいかをメモと比べて判断する問い。販路の拡大，六次産業化，地産地消という語句の具体的な意味が分かっていれば正答できる。

問２　ふたつの商品の需要と供給の関係をあらわすグラフから読み取れることを選ぶ思考力判断力の問い。選択肢の説明を一つずつ丁寧に追っていけば正答が得られる。

問３　地方自治における住民投票と民主政治の関係を考えて解く問い。基礎的基本的な知識と思考力判断力を問う。

問４　地方自治についてブライスの民主主義の学校という考え方を知っているかどうかを問う。

第３　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　「倫理」「政治・経済」を総合した出題範囲から，両科目の問題作成の方針を踏まえて問題作成を行う。

（倫理）

○　人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら，先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては，倫理的諸課題について，倫理的な見方や考え方を働かせて，思考したり，批判的に吟味したりする問題や，原典資料等，多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

（政治・経済）

○　現代における政治，経済，国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治，経済，国際関係等の客観的な理解を基礎として，文章や資料を的確に読み解きながら，政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては，各種統計など，多様な資料を用いて，様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　「自然と人間」に関するオープンキャンパスでの模擬授業とそれを受講した高校生が課題として提出したレポートを題材として，自然に照らした人間の在り方について考えを深める場面を通して，倫理的諸課題について考察する力と理解を問うた。リード文については，センター試験のような１ページ分の長いリード文とせず，オープンキャンパスでの模擬授業の場面を示した。

問１と問２では，基本的な知識を問うた。具体的には，問１で古代ギリシアと古代インドにおける人間の在り方に関する知識を問い，問２でイスラーム・古代ギリシア・中国・古代インドにおける森羅万象に関する知識を問うた。問３は，キリスト教に関する基本的な知識を問うた上で，その内容が現代の倫理的課題（環境倫理）に繋がることを考察する力を問うたものである。問４は，人間の在り方を「水」に喩えた孔子の言葉と老子の言葉の現代日本語訳の資料を提示し，教科書知識と提示された二つの資料の読解によって正答を選ぶ，新しい試みである。

全体として，基本的な教科書知識を問うたほか，読解力に加え思考力・判断力を試す問題を設けて，バランスの取れた標準的な難易度と評価された。最初の共通テストということで，幾つかの新しい試みも採り入れ，大問に込めた受験者へのメッセージ(「人間とは何か」を問うことの意義)は，おおむね伝わったものと思われる。

第２問　日本人にとって身近ではあるものの，摑みにくい「道」の概念をめぐって，留学生の質問を機に，生徒と留学生がともに学びを深めていくという過程に受験者にも参加してもらうことで，日本倫理の基底を貫く思想に改めて目を向けさせることを狙った。問４は，従来のリード文の趣旨を問う形式から，「道」とは何かについての資料を読解させ，日本文化の基底を貫く「道」について正しく理解できているかを問う形式に変更したが，所期の目的は一定程度，達成できたのではないかと考えている。

各設問では，神・儒・仏の各領域と古代から近代までの時代をバランス良く出題できるよう配慮した。問１は「道」と伝統芸能との関連を，写真を示して問うたが，会話中で生徒が留学生に誤った説明をするのは教育上問題があるとの指摘を，関係教育研究団体から受けた。間違うことから学ぶ姿勢も大事ではないかと考え，このような問題を出したが，懸念の声があることには，分科会での今後の問題作成に当たり重々配慮したい。問３は，関係教育研究団体からは，基本的な知識を問う問題と評価されたが，高等学校教科担当教員からは教科書では深く扱われない知識を問う問題であると指摘された。問６は，知識を組み合わせて考える力を問うことを意図したものであったが，その狙いが十分に伝わらなかったようである。知識と知識を組み合わせて答えさせる種類の問題は重要であり，今後もこの方向で努力していきたい。

大問全体を通して，単なる知識を問うのではなく，考えさせる種類の問題作成を狙ったが，結果的に従来の問題形式と余り変わらないものになった感は否めない。新形式で考えさせる問題を増やすことには，継続的に取り組んでいきたいが，教科書レベルでの学習に基づく客観性を担保しつつ，読解力・思考力をどのように問えるかは，今後の課題であると考える。

第３問　西洋近現代思想における幸福をテーマとし，生徒による課題探求の発表を，場面に設定し，発表内容を通じて幸福に関する西洋近現代の様々な考えを示し，高校生が，幸福をめぐる思想の変遷・背景・相互の連関を整理し，各人の社会・日常生活の中での倫理的課題について考えるきっかけとなることを意図した。また，私たちが生きる現代では，幸福を個人の問題としてのみならず，社会の問題としても考える必要があるというメッセージを込めた。作問に際しては，時代や地域，問われる資質能力がバランス良くカバーされるよう心掛けた。

問１では，カルヴァンとウェーバーに関する基本的知識を踏まえて，倫理的諸課題の特色，背景などの相互の関連性について考察する力を問うた。この問いについては，カルヴィニズムとウェーバーの思想の深い理解がなければ迷ったであろうと評価された。問２では，カントの道徳法則に関する正確な理解をもとに，論理的に思考し，実例に当てはめて活用できるかを問うた。カントの道徳について深く理解していないと正答を導くことができないという評価を得た一方で，発表資料を活用するための一工夫があっても良かった，という指摘も受けた。今後の作題に当たって留意したい。問３では，魂の糧の具体例に関するヴェイユの思想を述べた資料と，それを読んだ生徒の会話を通じて，社会生活や日常生活の中の倫理的諸課題について，批判的に吟味し，多面的・多角的に考察できるかどうかを問う試みをした。ヴェイユについて学んだ受験者が少ない点が懸念されたが，読解を通して思想への理解を深めることができる設問であり，また，知識を問うだけにならないよう工夫されている，との評価を受けた。問４では，発表の内容を振り返る会話を読み，会話を通じての生徒の考えの変化について正しく読み取った上で，倫理的な見方や考え方を働かせて，社会生活や日常生活の中の倫理的諸課題を捉えることができるかどうかを問うた。「知識を活用した上での会話文の読み取りにするなどもう一工夫が欲しい」という評価も頂いた。今後の検討課題としたい。

第４問　外国語学習の意義をめぐる会話を手掛かりに，「言語と社会の結びつき」が含む哲学的・心理学的な課題を具体的な場面に即して考えさせることを通じて，「自由と共同体の緊張関係」という倫理学の根本的問題の一つについて各人が主体的に考えを深めていく，ということを問題全体の狙いとした。会話文全体の趣旨の理解を問う問４については，高等学校教科担当教員から，「単なる読解力だけではなく，思考力・判断力・表現力等を高める学びの必要性を訴えている問題であった」という評価を得ており，上記の狙いはおおむね達成されたと判断

できよう。

各設問については，分野別・時代別にバランスの取れた出題となるよう配慮するとともに，基本的な知識の習得度を測るだけでなく，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが必要となるような問い方を心掛けた。そうした試みの一つとして，レヴィンの葛藤分類の理解度を日常的な場面に結び付けて問うた問２については，外部団体から「単に知識を問うのではなく，具体的な事柄に即して思考する力を求める問題であった」という評価を得た。また，「共同体主義」についての基礎的な知識を前提としたうえで，テイラーの文章の読解力を問うた問３については，単なる読解力だけではなく，基礎的な知識の習得度を同時に問うことのできる新しい形式となっており，高校教員から「良問であった」という評価を得た。

全体としてみれば，基礎・基本を重視した適切な難易度の問題であったと総括しうる。今後も，受験者の倫理への関心を喚起しうるようなメッセージを込めつつ，教科書の正確な理解とそれに基づく思考力・判断力・表現力等を，具体的な場面に即して発揮できるような問題を作る努力を続けていきたい。

第５問　選挙権を得たばかりの生徒が市長選挙の演説会を聴きに行くなかで，民主主義や行政の仕組みなどについて考察を深めていく場面を設定し，政治に関わる主体や行政監視，経済的自由権，日本の法制度で実施できる政策，公的医療保険制度，労働法制についての問題を作問した。問いは６問であった。

問３は，日本国憲法の定める経済活動の自由及びその規制についての基本的な知識を問う。問４は，日本の地方公共団体における行財政改革と法制度上認められた権限との関係についての理解を問う。問５は，日本の医療保険制度に与える影響の点から，高齢者雇用促進策などの意義を理解できるかを問う。

第６問　生徒が社会生活や日常生活の中から課題を発見し探究する場面を設定し，格差問題や環境問題，経済危機などの現代経済の諸問題にアプローチするための知識や思考力を問うことを出題の基本方針とする。各小問では，多国籍企業の経済活動，需要供給理論，自由貿易と労働生産性に関連して比較生産費説，気候変動への国際的な取り組み，経済学者と経済政策の関連，為替制度の変遷とその影響を問う問題を作問した。問いは６問であった。

問２は，スニーカーの人気が高まっている事象について，需要供給曲線の知識を活用し，原因と結果等，その関連について考察できるかを問う。問３は，貿易について，労働生産性の考え方を活用し，その事象の本質や特質を考察することができるかを問う。問５は，経済学者と彼らが主張した現実の経済政策との関連について基礎的な知識を問う。

第７問　地域社会の政治，経済についての変化や知識の活用に関する探究型の問題を作成する。生徒たちが地域課題の解決をテーマとした調査・分析を行うことを背景とし，実際の経済活動と経済的知識の組合せ，商品開発時の価格データの活用法，住民投票と地方議会政治，地方自治の在り方に関する問題を出題した。問いは４問であった。

問１は，事業展開の変化に対する知識について，教科書の知識と実社会の経済活動の関連性をつなげる理解力を問う。問３は，地方自治に関連して，地域の課題を解決するための手法としての住民投票の意義と限界を問う。

３　出題に対する反響・意見等についての見解

「倫理」分野については，関係教育研究団体から以下のような肯定的な意見を頂いた。「出題内容は，高等学校学習指導要領に示された教科及び科目の目標及び内容におおむね則しており，基礎・基本を重視したものとなっている。いわゆる奇問や難問とされる問題は見られず，高校生が

学習した知識や涵養(かんよう)した思考力や判断力を用い，考えて解いていく工夫が施されている標準的な問題である。基礎的基本的な知識を習得しているか，さらに習得した知識を活用して思考を深められるかを問う形になっている。」

「政治・経済」分野に関する反響・意見とそれについての見解は次のとおりである。

まず，「高等学校学習指導要領」に関しては，その範囲に沿った出題がなされたとの評価を受けた。次に，共通テストの目的に応えているかどうかであるが，⑴については，センター試験との比較において設問数，試験全体の分量や文字数の面で適切であったとの評価を受けていることから，これまでの蓄積は生かせたものと判断している。⑵については，資料を活用しながら，思考力・判断力・表現力等を問う設問が増加したことから，知識を単純に覚える授業からの脱却が期待されるとして，高校の授業に対し良い影響を与えるとの評価を得た。⑶については，リード文全体が簡潔に表現され，生徒が主体的に活動する学習過程を意識した場面設定がなされ，設問の中で主体的・対話的で深い学びを実現する授業を促す工夫がみられたとの評価を受けた。このように，共通テストに求められる要請にはおおむね応えることができたものと判断している。

ただ，その一方で，

・学習指導要領で求められる知識・技能を基に，それらを活用し，幅広い資料から課題を捉えて多面的・多角的に考察する力など，思考力・判断力・表現力等が必要とされる設問の工夫を期待したい。
・現実社会の諸課題や時事的な問題について，多面的・多角的に考察し，主体的に探究させるような問題の作成を期待したい。
・時事的な内容と絡めることができる題材もあり，更なる工夫が期待される。
・設問における記号の順序性の整理が期待される。
・設問の導入部分に工夫は見られるが，各設問を解く際に使われていないものもあり，更なる工夫が期待される。

などの意見・要望・提案等を頂いた。

また，個別の問題に対しては，以下のとおりの意見を受けた。

第５問　市長選挙を題材とし，生徒が候補者の演説を聞いた帰り道とその学習について場面設定をした大問である。全体としての難易度は標準であるとの評価を頂いた。

問３は，日本の経済に関する法制度における経済に関する自由の理解を問う，やや平易な設問であるとの評価を頂いた。問４は，行財政改革に関して，法制度の理解に基づき実施可能な政策を判断する，標準的な設問である。具体的な政策を考えることになり良問であるとの評価を頂いた。問５は，日本の公的医療保険制度の仕組みに関して，表の読み取りをした上で，医療保険制度の理解と思考を問う，やや難易度が高い設問であるとの評価を頂いた。

第６問　日常生活の場面による経済に関する会話やチャット，新聞記事を題材として，経済活動について問う大問である。新聞記事の場面設定は工夫されており，メッセージ性もある。全体としての難易度は標準であるとの評価を頂いた。

問２は，市場メカニズムに関して，需要供給曲線の理解をもとに，具体的事例を当てはめて計算させる標準的な難易度の設問であるとの評価を頂いた。問３は，国際分業と貿易に関して，比較生産費説の理解をもとに，具体的事例を当てはめて計算させる，やや難易度が高い設問である。これまでの同様の設問と比べて設定に工夫があり，思考力・判断力・表現力等を問う良問であるとの評価を頂いた。今後もこのような作題を心掛けていきたい。問５は，現実の具体的な経済政策について考察し，その基になった理論的な根拠となる学説を唱えた人物を答える，標準的な難易度の設問である。場面設定の工夫がある良問であるとの評価を

頂いた。今後もこのような作題を心掛けていきたい。

第７問　「地域課題に対する国・地方公共団体・住民の果たす役割」をテーマにした生徒の地域調査の計画を題材とした政治分野と経済分野の融合問題である。探究活動において，課題の設定，資料の収集，探究，まとめとその過程を示しており，メッセージ性のある問題である。全体としての難易度は標準であるとの評価を頂いた。

問１は，日本の農業や地域産業について，資料から具体的な取組みについて読み取り，知識と関連させて考察する，やや難易度の高い設問である。農家の具体的な取組みを考察することができる良問であるとの評価を頂いた。今後もこのような作題を心掛けていきたい。問３は，日本の地方自治制度に関する理解とそれに関する文章の読み取りの技能を相互に関連させた標準的な難易度の設問であるとの評価を頂いた。

４　ま　と　め

「倫理」分野についてのまとめは以下のとおりである。

今回が初めての共通テストであり，問題作成部会は作題に当たり困難に直面した（そこにはコロナ禍の下での作題も含まれる）。そのような状況下で努力して作った「倫理」の問題に対して頂いた肯定的評価は，今後の作題に向けて大きな力となるものである。しかしそれは同時に，その長所を更に伸ばしていくべき課題でもある。基本的な知識の確認，思考力・判断力・表現力等を問うこと，高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなること，大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持すること等の課題達成に更に取り組んでいきたい。またその際，問題作成方針に沿いつつ，受験者に，教科書で学習した基本的な知識を踏まえ，多様な資料を活用して考察させる質の高い問題を作っていきたい。具体的には，

・　これまで同様，分野別・時代別等においてバランスが取れており，一定の平均点を確保し，試験時間内にひととおり解き終わる問題作成に努める，
・　基本的知識を基にしながらも，変化する社会に対応できる理解力，思考力・判断力・表現力等を問う問題作成に努める，
・　高校生の学びの指針となるだけでなく高校生へのメッセージとなり，また大学人としての叡智に裏付けられた質の高さを維持するものとして，広く社会に誇れる問題作成に努める，

ということになろう。

「政治・経済」分野についてのまとめは以下のとおりである。

「高等学校教科担当教員の意見・評価」や「教育研究団体の意見・評価」で述べられている通り，全体としては，共通テストに求められる水準の作問ができたと評価している。だが，更に良質な問題を作成するには，

・リード文に代わる導入部分について，高校の学習の在り方に対するメッセージ性を高めるとともに，問題との関連性を強めること
・解答のための必要性や場面設定としての適切性なども考慮しつつ，全体の文章量を適切な範囲に収めること
・知識を問う問題については，問われている知識を受験者が把握しやすいように工夫すること

などが求められている。

こうした要請に応えることは容易ではないが，センター試験時代からの蓄積を踏まえ，今後も良質の問題が作成できるよう，問題作成部会の総力をあげて取り組んでいきたい。